



北翔大学
北翔大学短期大学部
北翔大学大学院

令和2年度 公開講座



北翔大学地域連携センターでは社会貢献活動の一環として、生涯学習講座等を実施しております。

学部・学科

北翔大学

生涯スポーツ学部

スポーツ教育学科

健康福祉科学学科

教育文化学部

教育学科

芸術学科

心理カウンセリング学科

北翔大学短期大学部

ライフデザイン学科

こども学科

北翔大学大学院

人間福祉学研究科

生涯学習学研究科

生涯スポーツ学研究科

★生涯スポーツ学研究科に令和3年4月 博士後期課程開設
道内唯一：博士（スポーツ科学）の学位が取得可能

北翔大学公開講座

新型コロナウイルスの
渦中を生きるための心理学
—若者とその家族を支えるために—



『新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響に関する調査結果』の概要をもとにして

北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科

公認心理師/臨床心理士

飯田 昭人(いいだ あきひと)

自己紹介



北翔大学

- 平成11年3月末 北海道教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻障害児教育分野修了→養護学校の先生になろうと思っていました！
- 平成14年3月末 大正大学大学院文学研究科博士後期課程福祉・臨床心理学専攻単位取得満期退学→村瀬嘉代子先生（日本臨床心理士会元会長/日本心理研修センター理事長）のもとで学べた期間でした。
- 平成14年～平成19年3月末 北海道警察本部少年課少年サポートセンター少年心理専門官→非行や犯罪被害の領域から子どもや家族、学校を見させていただきました。
- 平成19年～現在 北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科所属。公認心理師、臨床心理士。北海道臨床心理士会一般理事（研修担当）。北海道いじめ問題審議会委員。児童養護施設北光社ふくじゅ園評議員。NPO法人kacotamアドバイザーほか。北海道大学（感情人格心理学）、北星学園大学（学校心理学）非常勤講師。

今日のお話の構成

・序盤

北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科の紹介→
支援には、**カウンセリング**と**ソーシャルワーク**の視点があります。

・メイン

道内の大学約900名を対象に、「**新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響**」というテーマで研究を行いました。
その結果を紹介し、「**新型コロナウイルスの渦中を生きるための心理学**」について考えてまいります。

北翔大学

心理カウンセリング学科・学科相談

2020.9.27 Sun



本学科の概要

対人援助を大切にしている～①心理学の視点

①相談者の話に耳を傾け、特にどうということに困っているのか、どういうふうになれば安心できるのかななどを心理学の理論等を用いて一緒に考えながら、相談者が自らの力で解決していくことを目指す。→

「こころの支援（心理学）」の視点が大切。

本学科の概要

対人援助を大切にしている～②精神保健福祉学の視点

②相談者の話に耳を傾け、虐待の問題が語られた場合、この相談者が虐待を受けないで生活するために、この相談者の生活環境を調整する(保護者と面接をする、関係機関で会議を行う、相談者を保護するなど)ことを通し、相談者が当たり前の生活を享受できるようになっていくことを目指す。

→

「生活と人の関係の支援（福祉（精神保健福祉士））」の視点が大切。

本学科の概要

心理学と精神保健福祉学の視点から「対人援助」を考える

心理学（こころの支援を中心に）と、精神保健福祉学（生活と人の関係の支援）の双方をバランスよく学ぶことを通して、対人援助者の養成を目指しています。

また、本学科での学びが対人援助にとどまらず、自分自身を知り、社会を知り、どう生きていくのかを自らの力で考えていくことを目指しています。

貧困研究からの気づき

- ・ファーストプレイス(家庭)
- ・セカンドプレイス(幼稚園・保育園、学校など)
- ・サードプレイス(地域社会)

子ども食堂、児童デイ、学習支援(kacotamやまなべえなど)、地域の居場所(ねっこぼっこのいえなど)やひとり親家庭支援など。

理想は、ファーストプレイスである家庭や、セカンドプレイスである幼稚園・保育園、学校などで躓きを抱えてしまったとしても、サードプレイスで適切なかわりと居場所が準備されればと思います。ソーシャルワークも大切だと考えます。

新型コロナに翻弄される大学生

- ・令和2年6月ごろより小学校・中学校・高等学校が順次再開されてきた頃より、大学生の想いを反映する事象として、「**#大学生の日常も大事だ**」というハッシュタグがTwitterで拡散されるようになってきた。
- ・同年7月にはある芸術系学科の大学生の「大学生は、いつまで我慢をすればいいのでしょうか。」というツイートで、4月から7月までの大学生活をマンガで描写している。
- ・そのマンガには「小中高も会社も再開してるのにどうして大学は始まらないの？」「旅行には行ってもいいのに大学に行ってはいけないの？」「消えるのは授業日数と変わらない学費」など、慣れないパソコン操作に悪戦苦闘する一大学生の気持ちが吐露されており、現在(2020年12月29日)までも約40万件的いいねがつき、約15万件リツイートされている。

研究の背景

- ・各大学が大学生の安全・安心と教育の質の保障を担保するために、手探りでオンライン授業を実施していたことに敬意を表しています。
- ・大学生への対応を考える上では、現在の大学生が置かれている現状を把握することに努め、学生たちの声に耳を傾け、正確に大学生の生活状況を把握することが重要ではないでしょうか？

大切なことは、当事者との対話を試みること！

- ・北翔大学北方圏学術情報センター「健康」研究グループ新型コロナウイルス研究班で調査を行うこととしました！

【共同研究者】水野 君平（北海道教育大学旭川校）入江 智也（北翔大学）西村 貴之（北翔大学）川崎 直樹（日本女子大学）斉藤 美香（札幌学院大学）

調査協力者と調査時期

- 北海道内の複数の大学に縁故法により依頼し、承諾の得た909名の大学生を対象とした。平均年齢は19.9歳 ($SD=2.6$) であった。
- 調査時期は、令和2年7月から9月であった。

調査内容①

調査はMicrosoft Formsによってweb上で行った。
内容については、以下の通りである。

①居住形態

「元々実家に住んでいる。」「一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる。」「今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている。」「シェアハウス、親せき宅などで家族以外の他人と暮らしている。」「その他」の5項目尋ねた。

②アルバイトの状況

「大学生になってからはアルバイトをしていない。」「大学生の時からしていたが、勤務時間が減らされている。」「大学生の時からしており、今もほぼ変わらず勤務している。」「その他」の4項目で尋ねた。

調査内容②

③奨学金受給状況

「奨学金をもらっていない。」「大学生になって初めて奨学金をもらっている。」「高校生の時から奨学金をもらっていて、大学生になってからももらっている。」「その他」の4項目で尋ねた。

④新型コロナウイルス発生前後の経済的困り感

「経済的にかなりゆとりがある」「経済的にまあゆとりがある」「経済的にゆとりはないが困ってはいない」「経済的に困っている」「経済的にかなり困っている」の5項目で尋ねた。この5項目は、平井ら(2015)の主観的経済状態の指標を引用した。

⑤現在の講義形態

「すべて遠隔授業。」「大半が遠隔授業。」「遠隔授業と対面授業が同じくらいの割合。」「大半が対面授業。」「すべて対面授業。」の5項目で尋ねた。

調査内容③

⑥1週間における遠隔授業の履修コマ数

1週間における遠隔授業の履修コマ数(1コマ90分)について、「1～4コマ」「5～10コマ」「11～15コマ」「16～20コマ」「21コマ以上」の5項目で尋ねた。

⑦オンデマンド型授業(教員が資料や動画等によって講義を行い、課題を提出するもので、リアルタイムには講義が行われないもの)及びライブ型授業(教員がZOOMやTeamsなどによって講義を行い、時間割通りに講義が行われるもの)の1週間の履修時間数

1週間における遠隔授業の履修コマ数(1コマ90分)について、「1～4コマ」「5～10コマ」「11～15コマ」「16～20コマ」「21コマ以上」の5項目で尋ねた。

調査内容④

⑧オンデマンド型授業(教員が資料や動画等によって講義を行い、課題を提出するもので、リアルタイムには講義が行われないもの)及びライブ型授業(教員がZOOMやTeamsなどによって講義を行い、時間割通りに講義が行われるもの)の負担感

「まったく負担ではない。」「あまり負担ではない。」「どちらともいえない。」「少し負担である。」「とても負担である。」の5項目で尋ねた。

そして、心理尺度であるKessler 6 scale(古川ら, 2002)6項目, Generalized Anxiety Disorder-7(村松ら, 2010)7項目, 孤立感尺度短縮版(Igarashi, 2019)3項目を用いた。その他の項目も尋ねたが, 本報告では省略する。

調査対象者の属性

Table 1 性別		
	人数	%
女性	530	58.3%
男性	362	39.8%
その他（答えたくないなど）	15	1.7%
未回答	2	0.2%

Table 2 在籍課程		
	人数	%
大学（4年制）	835	91.9%
短期大学	52	5.7%
大学院	20	2.2%
その他	1	0.1%
未回答	1	0.1%

Table 4 年齢		
	人数	%
18歳	178	19.6%
19歳	263	28.9%
20歳	213	23.4%
21歳	127	14.0%
22歳	57	6.3%
23歳	18	2.0%
24歳以上	19	2.1%
未回答	34	3.7%

Table 3 学年		
学年	人数	%
1年生	297	32.7%
2年生	284	31.2%
3年生	199	21.9%
4年生	103	11.3%
過年度生（4年間で卒業していない学生）	8	0.9%
大学院生（修士課程、博士後期課程）	15	1.7%
上記以外（聴講生、科目履修生など）	2	0.2%
未回答	1	0.1%

Table 5 所属学科		
	人数	%
心理系学科	165	18.2%
教育系学科	399	43.9%
スポーツ系学科	160	17.6%
福祉系学科	32	3.5%
芸術系学科	27	3.0%
法律系学科	2	0.2%
経済・経営・社会学系学科	13	1.4%
情報系学科	78	8.6%
医療・看護系学科	7	0.8%
文学・語学系学科	2	0.2%
工学系学科	2	0.2%
その他、上記以外	20	2.2%
未回答	2	0.2%

結果と考察①居住形態

居住形態は、Table6のとおりである。
「一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる。」が8.9%であった。

調査時期が4～6月であれば、もう少し割合が高かったと思われるが、7～9月時点でも1割弱が実家に戻っていることがわかった。

また、「今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている。」が38.2%おり、アルバイト稼働や北海道及び札幌の新型コロナウイルスの状況などから実家に戻ることをためらう学生もいるのではないかと考えた。

Table 6 居住形態		
	人数	%
元々実家に住んでいる。	432	47.5%
一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる。	81	8.9%
今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている。	347	38.2%
シェアハウス、親せき宅などで家族以外の 他人と暮らしている。	19	2.0%
その他	29	3.2%
未回答	1	0.1%

結果と考察②アルバイトの状況

アルバイトの状況は、Table 7のとおりである。「大学生の時からしていたが、勤務時間が減らされている。」が23.0%であった。調査対象者の約4分の1がこの時期でのアルバイトの勤務時間を減らされていることがわかった。また「大学生の時からしており、今もほぼ変わらず勤務している。」が34.9%いることから、この新型コロナウイルスの影響で慣れない遠隔授業の最中も全体の3割強の学生はアルバイトを継続している状況が見て取れた。

飯田(2019)は、大学生のアルバイト収入については、「3～4万円台」、「5～6万円台」がともに20%、「7～8万円台」が19%、「1～2万円台」が10%、「10～12万円台」が5%、「13万円以上」が2%であることを明らかにしている。この結果から7割強の学生がアルバイトに従事する中で、新型コロナウイルスによる収入減少は大学生生活を営んでいく上で困難を伴うものであろう。

Table 7 アルバイトの状況		
	人数	%
大学生になってからはアルバイトをしていない。	234	25.7%
大学生の時からしていたが、勤務時間が減らされている。	209	23.0%
大学生の時からしており、今もほぼ変わらず勤務している。	317	34.9%
その他	148	16.3%
未回答	1	0.1%

結果と考察③奨学金の受給状況

奨学金受給状況は、Table 8のとおりである。「大学生になって初めて奨学金をもらっている。」が51.5%、「高校生の時から奨学金をもらっていて、大学生になってからももらっている。」が5.8%で、合計すると57.3%の学生が大学で奨学金を受給していることが分かった。また「奨学金をもらっていない。」と答えた学生が40.8%いたことから、受給している学生としていない学生に二極化されていることが見て取れた。

吉中(2016)は「前提として奨学金問題の背景には、学費負担者の収入が減少しつつあるなかで、奨学金を借りて進学せざるを得ない状況になっていることがある。」「また、少数ではあるが家計補助的に給付している実態もうかびあがった」と述べている。この結果から、道内の大学生の半数以上の学生が奨学金を受給しており、今回の新型コロナウイルスに影響により保護者の収入の減少が懸念されるとともに、奨学金に依拠する学生が今後も増えていくことが考えられる。

Table 8 奨学金受給状況		
	人数	%
奨学金をもらっていない。	371	40.8%
大学生になって初めて奨学金をもらっている。	468	51.5%
高校生の時から奨学金をもらっていて、大学生になってからももらっている。	53	5.8%
その他	16	1.8%
未回答	1	0.1%

結果と考察④新型コロナウイルス発生前後の経済状況の認知について

新型コロナウイルス発生前後を比較すると、経済的困り群（「経済的に困っている」「経済的にかなり困っている」）が2.7倍増加している。新型コロナウイルス発生前と発生後の経済状況の認知に差があるかどうかについて対応のあるt検定を行ったところ有意な差が認められた($t=12.706$, $df=695$, $p<.001$)。

この結果から、新型コロナウイルス発生前と発生後において、学生の経済状況の認知については発生後のほうが困っているという認知が高くなっていることが示され、保護者の収入減少や学生のアルバイト収入減少などの背景があることが考えられる。

Table 9 新型コロナウイルス発生前の経済状況の認知

	人数	%
経済的にかなりゆとりがある	49	5.4%
経済的にまあゆとりがある	307	33.8%
経済的にゆとりはないが困ってはいない	467	51.4%
経済的に困っている	67	7.4%
経済的にかなり困っている	18	2.0%
未回答	1	0.2%

Table 10 新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知

	人数	%
経済的にかなりゆとりがある	34	3.7%
経済的にまあゆとりがある	193	21.2%
経済的にゆとりはないが困ってはいない	450	49.5%
経済的に困っている	179	19.7%
経済的にかなり困っている	53	5.8%

結果と考察⑤1週間における遠隔授業の履修コマ数

1週間における遠隔授業の履修コマ数（1コマ90分）については、Table 12のとおりである。「16～20コマ」が16.2%、「21コマ以上」が5.1%であり、これらを合わせると、2割強の学生が、1日平均3コマの遠隔授業を履修していることがわかった。

Table 12 1週間における遠隔授業の履修コマ数

	人数	%
1～4コマ	178	19.6%
5～10コマ	194	21.3%
11～15コマ	340	37.4%
16～20コマ	147	16.2%
21コマ以上	46	5.1%
未回答	4	0.4%

結果と考察⑥オンデマンド型授業(教員が資料や動画等によって講義を行い、課題を提出するもので、リアルタイムには講義が行われないもの)の負担感について

1週間におけるオンデマンド型授業の負担感については、Table 15のとおりである。負担群(「とても負担である。」「すこし負担である。」)は52.4%、負担ではない群(「まったく負担ではない。」「あまり負担ではない。」)は32.8%となり、二極化が見て取れた。

二極化の背景については、遠隔授業における個別学習の親和性が関係していると考えた。オンデマンド型授業は課題提出が求められるが、これは教員からするとどの程度授業を理解しているのかを確認する意味合いがあるが、それ以外にも出席確認ということもある。ある程度、個別学習に慣れている学生とそうではない学生によって、負担感が異なるのではないかと考えた。

Table 15 オンデマンド型授業の負担感

	人数	%
まったく負担ではない。	92	10.1%
あまり負担ではない。	206	22.7%
どちらともいえない。	130	14.3%
すこし負担である。	300	33.0%
とても負担である。	176	19.4%
未回答	5	0.6%

結果と考察⑦ライブ型授業(教員がZOOMやTeamsなどによって講義を行い、時間割通りに講義が行われるもの)の負担感について

1週間におけるライブ型授業の負担感については、Table 16のとおりである。負担群(「とても負担である。」「すこし負担である。」)は48.1%、負担ではない群(「まったく負担ではない。」「あまり負担ではない。」)は32.5%となり、オンデマンド型授業と同様に二極化が見て取れた。

二極化の背景については、オンラインに関する知識、デジタル機器操作の熟練度、自宅のWifi環境などが関係していると考えた。

私たちがライブ型授業を実施しての感想であるが、学生のオンラインの知識が乏しい場合は、なかなかZOOMやMicrosoft Teamsにアクセスできずに授業に参加できなかった場合があった。結局、アクセスできずに諦めてしまい、遠隔授業への参加の負担になってしまうことが考えられた。

Table 16 ライブ授業の負担感

	人数	%
まったく負担ではない。	85	9.4%
あまり負担ではない。	210	23.1%
どちらともいえない。	172	18.9%
すこし負担である。	317	34.9%
とても負担である。	120	13.2%
未回答	5	0.6%

その他の指摘したい点

- Kessler 6 scale (K6) について

平均値は6.68 (SD=5.93) 点であった。何らかの精神疾患の確率が高いとされる15点以上が全体の11.9%であった。

- Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7) について

平均値は4.76 (SD=4.83) 点であった。不安感が高いとされる10点以上が全体の16.5%であった。

- 孤立感(孤立感尺度短縮版3項目を使用)について

平均値は4.72 (SD=1.84) 点であった。この点数はあまり高いとは言えないことから、遠隔授業を受けている大学生の孤立感が高いとは言えない。

※総じて、女子学生のほうが男子学生よりも遠隔授業の負担感や不安感、孤立感などが高い傾向が見て取れる。

まとめ①経済状況の認知

- ・本研究から示唆されることとしては、まず新型コロナウイルス発生によって経済的に困っていると認知している学生が増加していることであり、親の雇用状況や本人のアルバイトなどの収入が不安定であることが推察される。
- ・経済状況の認知と自尊心感情などにも関連があると言われています。
- ・経済状況に関する有形無形の支援は重要になります。

まとめ②オンライン授業の負担感

- ・オンライン授業の負担感については二極化が認められた。個々の大学生の置かれた状況(**オンラインに関する知識, デジタル機器操作の熟練度, 遠隔授業による個別学習形態への親和性**など)によって負担感の受け止め方が異なると考えられる。
- ・学生への丁寧なサポート体制が必要。オンライン授業に関すること、メンタルヘルスのサポートに関すること。

まとめ③精神健康、不安感、孤立感について

- ・最後に、コロナ禍において、大学生の精神的健康が低下していることは明らかです。
- ・コロナ禍においては不安感も高いことがわかっています。
- ・孤立感については、自宅等で一人オンライン講義を受講していたものの、「自分一人だけではない」という受け止めが従来よりも「孤立感」を低めているのかもしれない。

私たちにできること

- ・大学生にエールを送ってください！
- ・経済的に困っているということと、人間として劣っているということは明確に異なるということを機会があるなら伝えてあげてください！
- ・新型コロナウイルスという先の見えない不安な状況下で、私たち大人は根拠の乏しい話に振り回されず、家族や他者との会話を大切にして、一日いちにちを穏やかに過ごしてください。
- ・もし、身近に困っている方がいましたら、アドバイスや指図ではなく、まずはじっくりお話を聴いて、その人の大変さを理解するように努めてください。人間は自分をわかろうとする人を前にしたとき、初めて、重い腰を上げて自分で歩み始めていけると思います。

ご視聴ありがとうございました

お問い合わせ先

北翔大学 地域連携センター

北海道江別市文京台23番地 ☎ 011-387-3939

✉ kouzacen@hokusho-u.ac.jp